

社協から 今月のお知らせ



守山市社協キャラクター
もりびー

ひきこもり支援をご利用ください

社協では、社会となかなか関わりが持てない人とつながり、居場所を見つけてもらうために、ひきこもり支援事業を実施しています。

地域福祉活動センター
コミュニティハウス・ほたる

●ほたるの広場

社協が借り上げた一軒家で、ひきこもり当事者や家族が自由に過ごすことができます。知恵の輪やテーブルゲームなどを用意しています。

【時】毎週火曜日午後1時30分～4時(年末年始、祝日は除く)

ひきこもりサポーター(ボランティアスタッフ)の声

一緒にゲームやおしゃべりをして過ごしています。参加者が徐々に打ち解けてくれるのがうれしいです。居場所を求めている人にぜひ来ていただきたいです。



守山市社会福祉協議会

☎・📠(583)2923 📠(582)1615

✉fukushi@moriyama-shakyo.or.jp



ホームページ

●ほたるサポート事業

1回当たり30分程度の軽作業やボランティア活動などへの参加を促進しています。現在10～40歳代の人が登録し活動しています。

●ひきこもり一斉電話相談

県内の参画団体による一斉電話相談を実施します。ひきこもりに関する、あらゆる相談を受け付けます。社協だけで解決できない場合は専門機関につなぎます。



【時】9月14日(木)、15日(金)午前9時～午後6時
相談専用ダイヤル ☎(584)5282

ある社会福祉士のひとこと



8050問題

80歳代の親が、50歳代のひきこもりの子の生活を支える構図を指します。未婚で無職の子が同居する親に生活費を頼るうち、社会から孤立する現象を「8050問題」と大阪府豊中市社協の勝部 麗子さんが名付けました。収入や介護の問題などで親子ともに生活が困難になることが多く、社会問題としてとらえられています。

ひきこもりの原因は人間関係や病気などさまざまで、その実態は周りからは見えにくく、地域の理解と支援者が必要です。

学芸員の仕事

佐川美術館「アートコラム」⑦

学芸員 佐川美術館
栗田 頌子



私は今年の3月に大学院を卒業し、4月から佐川美術館で学芸員をしています。美術館に行くことや美術作品を鑑賞することが大好きだった私の目標は美術館で働くことで、必死に夢を追いかけてきました。念願かなって働き始めて約4カ月、先輩たちに業務を教えてもらいながら目まぐるしくも、とても楽しく働いています。

美術に携わるいろいろな仕事の中で私は学芸員を目指したのですが、皆さんは学芸員がどのような仕事をしているかご存じですか。学芸員は美術品の収集・保存・展示をはじめ、展示会の企画からその広報、講座やワークショップなどの教育普及まで、その仕事内容は多岐にわたります。

イメージしにくいかもしれませんが、実際に働いて知った学芸員の仕事を少し紹介します。美術館では定期的に展示会とイベントが行われていますが、それに係るさまざまな業種の方とのやりとりは学芸員が中心に行っていて、あらゆる情報を一つにまとめ、必要に応じて各所に情報を伝えます。また、皆さんがよく目にするホームページやチラシ、広告のプロデュースも学芸員が行い、どうすれば美術館や展示会の魅力が最大限に伝わるか学芸員全員で熟考しています。このコラムもそういった仕事の一つです。

私の学芸員の道はまだまだ始まったばかりです。お客さまに喜ばや学びを感じてもらえる美術館の運営に携わられている幸せをかみしめ、一人前の学芸員になれるよう日々奮闘しています。

※開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話☎(585)7800)でお問い合わせください。